研究プロジェクト報告

『史料編纂掛備用写真画像図画類目録』画像の部のデータ公開

藤原　重雄

巻頭例言に明治四十二年（一九〇九）五月と記す『史料編纂掛備用写真画像図画類目録』は、古い目録であるため所蔵する図書館も少なく、国立国会図書館でも架蔵されていないようです。そのため昨年度に、本所所蔵の一冊を撮影し、所蔵史料目録データベースから版面画像をWeb公開しました。この目録は、写真・画像・図画の三部に分けて、修史局の開設以来、本所が蒐集してきた視覚的史料（画像史料）の複製を検索しやすくしたものです。

このうち「写真目録」は、記載されている番号が現在も台紙付き写真の請求番号としておおむね継承されており、現役の番号と言えます（例えば第一架一番は［台紙付写真－一－一］）。現在では、「架」は数字として冠せられるのみですが、この目録時点では、内容に即した分類（宸翰・文書・肖像・図画等と時代との組み合わせ）を見出しとして付与しており、小さなまとまりを作っては追加してゆくような整理体系がうかがえます。

一方、「画像目録」および「図画目録〈附雑〉」の番号は、現在では完全に変更されており、新旧番号の対応確認にはひと手間を要します。「画像目録」では、肖像画の模写（若干の原本・印刷物を含む）を「画像」という分類の下に、おそらくは登録順に通し番号を付したもののようで、本目録では「画像四一四　二宮尊徳画像」までを対象とし、像主名の五十音順に配列し直して掲げています。旧番号の通し番号順の目録としては、手書きの『史料編纂掛所蔵画像図画目録』［RS4100-44］（［RS4100-80］も同内容の清書本）があり、種々の書き込みと使用痕からは長く現場で用いられていた様子がうかがえ、「画像八七八　長谷川等作画像」［呂－三二七］（一九三二年八月模写）までが追加されています。また「図画目録〈附雑〉」に収められたものは、「図画」はほとんどが地図で、肖像画以外の絵画を含み、「雑」は彩色ある影写本とでも言うべき金石文などの模写で、拓本は原則として別分類にされました。同じく先の手書き目録では「図画三九一　異国渡海船路積図」［仁－七二］（一九三四年六月模写）、「雑一二八　安南国書」［以－三一四］までを著録します。現在の請求番号［以～止］は、画像・図画・雑の内容分類を解消し、これら模写を形態・軸長によって再配架したものです。

このたび『史料編纂掛備用写真画像図画類目録』のうち「画像目録」の部分を入力するとともに、現在の架番号と対照させて、肖像画模本データベースへのリンクを付したエクセルファイルを、東京大学学術機関リポジトリより公開しました。肖像画模本データベースは検索結果への直接のリンクができず、現段階では人間が利用できれば良いものとして、汎用性のある機械可読のデータ形式にまではしておりません。模写原品に当たっての照合は、模写が複数点あるなどして特定し難い場合に限りましたが、旧番号が欠失あるいは判読し難くなっているものもありました。所史に関する公文書の整理が進むと模写の制作経緯を確定できることも予想されますが、模写年代が不明となっている場合に、この目録からその下限を押さえることができます。所蔵史料目録データベースや肖像画模本データベースへ旧番号を登録するのはしばらく後になるので、本データを検索してご参照ください。一九〇九年以降の分についても、新旧番号の対照ができるようにしたいと思います。手書きの目録も、所蔵史料目録データベースから画像Web公開の予定です。

一九〇九年以前に登録を終えた模写の画像を通覧すると、模写態度にはかなりの幅があり、図柄や文字を見やすく写し取って地色は入れず彩色も淡泊なものから、全体に濃彩として（おそらく印刷物にすることも意識した）復元的な方向性があるもの、さらに旧番号の終わりの方では剥落模写も含まれています。この目録の刊行後には、模写対象の絵画としての質感の再現を目指した厳密な剥落模写もなされ、模写制作の担当者の比定とともに、模写自体の資料性について検証が課題となっています。博物館・出版社・メディア等の関係者にあっては、本所の模写が展示や掲載に適切なものであるのか充分にご吟味いただいた上で、ご利用をお願いしたいと思います。